はじめに

本文書に記す Linux のインストール手順は、初心者がまず Linux を使える環境を持つことを目的と した、最小限の設定を行うものです。また、部分的には、岐阜経済大学井戸研究室の所属学生に向けた 内容を含みます。

実際の作業全体は、次の手順で行います。

- (1) Windows のデータのバックアップ作成
- (2) Windows のディスクパーティションの変更
- (3) Linux のインストール

本文書は、(3)の Linux インストールの手順を示すものです。

<u>諸条件</u>

(1) ソフトウェア

- ・VineLinux2.5を使用
- ・Windows と Linux との 2 つの OS を使用 (LILO にて選択起動)
- ・Windows98 (Me でもほぼ同様です。XP については、ちょっと待ってください)
- (2) ハードウェア
 - ・PCはCDドライブを内臓
 - ・PC の起動時に、[F12]押下により起動ディスクの選択が可能

(そうでない場合、BIOSの設定により、起動ディスクの順序を変更する必要があります) また、本マニュアルは、富士通のノート PC(FMV-675NU9/L)を用いた場合を想定して、画面イメー ジを作成しています。さまざまな PC では、若干異なる点があるかと思いますが、基本的には同じ操作 となるはずです。

<u>準備するもの</u>

Linux がインストールされる PC 以外に必要なものは、次のとおりです。

- (1) Linux2.5 を収録した CD 井戸が準備します
- (2) 起動ディスク作成用の FD (フロッピーディスク) 各自準備してください

<u>手順</u>

- <u>1.インストーラの起動</u>
- (1)本体 CD ドライブに Linux 2.5 の CD を装着します。
- (2) PC を再開起動させます。
- (3)最初の画面が出たら、直ちに[F12]キーを押下し つづけます。
- (4) <画面1 >のような起動メニューが出力されるので、カーソルキー([][])を操作して、3の"ATAPI CD-ROM ドライブ"を選択し、[Enter]を押下します。

<画面1> 起動メニュー 1.*フロッピーディスクドライブ 2.*八ードディスクドライブ <u>3.ATAPI CD-ROM ドライブ</u> <BIOS セットアップを起動>

<画面2> VineLinux

(5) Vine Linux のインストーラのモード選択画面

(<画面2>)が英文で表示されるので、グラ フィカルモードを選択するために、[Enter]キ ーを押下してください。Vine Linuxのインス

To install or update Vine Linux2.5 in Graphical mode, press the <ENTER> key.

トーラの画面が順次表示され、これらを用いて設定を行っていきます。

- 2.言語、キーボードマウスの選択
- (1) <画面3>では、インストーラで用いる言語を選択します。
- (2) カーソルキー([][])または、マウスを操作して、"Japanese"を選択します。
- (3) [Next]をクリックして、次の画面に進みます
- (4) < 画面 4 > にて、キーボードの設定を行います。
- (5) "モデル"には"Japanese 106-key"を、"レイアウト"には"Japanese"を、"デッドキー"には"デッド キーを有効にする"を、それぞれ選択します。
- (6) [Next]をクリックして、次の画面に進みます。
- (7) < 画面5 > にて、マウスの設定を行います。
- (8) マウスは、"3 Button Mouse(PS/2)"、もしくは、"3 Button Mouse(USB)"のいずれかの場合が多いと思います。画面左の説明を読んで、選択してください。
- (9) [Next]をクリックして、次の画面に進みます。



Linux のインストール ver.1.0(2/6)

- (5) [次]をクリックして、次の画面に進みます。
- <u> 4.ディスクのパーティション設定</u>
- (1) < 画面7 > にて、パーティション分割方法の 選択を行います。
- (2) "Disk Druid を使用して手動でパーティションを設定"を選択します。
- (3) [次]をクリックして、次の画面に進みます。
- (4) 警告のウインドが出ますが、"無視"をクリッ クします。
- (5) < 画面 8 > にて、パーティションの設定を行います。
- (6) まず、"/boot"のパーティションを作成します。[新規]をクリックしてください。
- (7) <画面9>のウインドで、"マウントポイント"に"/boot"を、"ファイルシステムタイプ"に"ext3" を、"容量"に"48"を、それぞれ入力します。また、"追加容量オプション"は、"固定容量"とし ます。[OK]をクリックして、ひとつのパーティションが作成できました。
- (8) おなじ要領で、"/"、"/swap"、"/home"のパーティションを作成します。下の表のような設定に してください。表の順番通りに行ってください。

マウントポイント	ファイルシステムタイプ	容量(MB)	追加容量オプション
/boot	ext3	48	固定容量
/	ext3	3000+2	固定容量
/swap	swap	500	固定容量
/home	ext3	1000+	可能な最大容量まで拡大

なお、上記の表中の""の値は、ディスクの残容量に合わせて決めてください。

- (9) 上記(7)(8)の操作により、パーティションは<画面10>のようになります。値が細かく ずれていることは無視して構いません。
- (10)[次]をクリックして、次の画面に進みます。





<画面9>						
マウントポイント		/bo	ot			
ファイルシステムタ	イプ	ext	3			
選択可能なドライブ		hda				
容量 (MB)		48				
追加容量オプション						
固定容量						
	OK	取り	〕消し			
<画面10>						
デバイス	開始	終了	容量(MB)	タイプ	マウンティングポイント	フォーマット
/dev/hda	1	66	510	IBM		
/dev/hda1	67	650	4581	vfat		しいえ
/dev/hda2	651	656	47	ext3	/boot	はい
/dev/hda3	657	1222	4440	ext3		
				自由領域		
/dev/hda5	657	1038	2996	ext3	1	はい
空き	1039	1039	< 1	自由領域		
	1100	1100		swap		はい
//lr	1103	1103	< 1 509	自田領域		
/dev/nda/	1103	1222	5 5	ext3 白山領博	;	1211

- <u>5.ブートローダの設定</u>
- (1) < 画面11 > にて、ブートローダの 設定を行います。
- (2) "LILO をブートローダとして使用"、"/dev/had マスターブートレコ ード(MBR)"を選択します。
- (3) ブートラベルは、特に変更する必要 はありません。[次]をクリックして、 次の画面に進みます。



- <u>6.ネットワークの設定</u>
- (1)ここでは特に設定を変えず、[次]をクリックして、次の画面に進みます。
- <u>7. 言語サポートの選択</u>
- (1) < 画面12 > にて、言語サポートの選択を行い ます。
- (2) "システム標準の言語"には、"Japanese"を選択 してください。
- (3) "システムに追加する言語"では、"Japanese"
 に加え、"English"にもチェックをつけておきます。[次]をクリックして、進みます。

<u>8.タイムゾーンの設定</u>

(1)ここでは特に設定を変えず(すなわち"東京"を選択したまま)[次]をクリックして、次の画面に 進みます。



<u>9.アカウントの設定</u>

- (1) < 画面13>にて、アカウントの設定を行います。
- (2) まず、"システムの root(管理者)"のパスワードを設定します。確認のため、2度入力します。言うまでも無いことですが、パスワードを絶対に忘れないで下さい。自信の無い人は、書き留め て置いてください。
- (3)次に[追加]をクリックして、自分自身のアカウントを作っておきます。
- (4) < 画面14 > にて、ユーザ名、名前、パスワードを2度、それぞれ入力してください。パスワードは忘れないで下さい。入力したら、[OK]をクリックします。
- (5) [次]をクリックして、次の画面に進みます。



- <u>10.パッケージグループの選択</u>
- (1) "GNOME"を選択したままにします。[次]をクリックして、次の画面に進みます。
- <u>11.グラフィカルインターフェースの設定</u>
- (1) ここでは、インストーラが自動的に検出したビデオカードが選択されています。特に変更しないで、[次]をクリックして、次の画面に進みます。
- <u>12.インストールの準備完了</u>
- (1)[次]をクリックして、インストールを開始します。少し時間が掛かります。コーヒーブレイク。
 13.起動ディスクの作成
- (1) フロッピーディスクを装着し、[次]をクリックします。
- (2) 装着したフロッピーディスクは、"起動ディスク"とラベルを貼って、保管しておいてください。 <u>___14.モニタの設定</u>
- (1) インストーラが、モニタを検出して、適当な設定が行われます。
- (2) ノート PC の場合、"モニター未検出、Unprobed Monitor"となりますが、気にしなくて OK です。
- (3) デスクトップ PC の場合、検出がうまく行かない時は、メーカ名・製品名・型番を調べて選択してください。このようなことは、あまり起こらないと思います。
- (4) [次]をクリックして、次の画面に進みます。
- <u>15.X 設定のカスタマイズ</u>
- (1)通常はインストーラの設定のままで、変更しなくても OK です。ぶどうの絵がうまく写っていない場合は、"色・深度"、"画面の解像度"の値を変えて調整してください。解像度は、付属のマニュアルや Web で調べられます。
- (2) 路銀の種類は、"グラフィカル"のままにしておいてください。

<u> 16.終了画面</u>

(1)[完了]をクリックし、フロッピーディスクを抜いて、PCを再起動してください。

Linux を起動する

PC を再起動すると、どの OS(Linux or Windows)を立ち上げるかを問う画面が出てきます。カーソル キーで OS を選択して、[Enter]を押下します。タイムアウトすると、Linux が立ち上がってきます。 Windows を立ち上げる際には、すばやく選択してください。

<u> おわりに</u>

今後、このマニュアルを改良していく予定でいます。お気づきの点があれば、教えて頂けると助かり ます。

- 以上 -